

令和6年度 第1回 交野市地域公共交通会議 議 事 録

[日時] 令和6年5月30日(木) 午後3時30分～4時41分

[場所] 交野市役所 別館3階中会議室

1. 開 会
・市長あいさつ
2. 令和6年度 共創・MaaS 実証プロジェクトについて
3. (仮称)交野市北部巡回バス実証運行計画について
4. そ の 他
5. 閉 会

交野市地域公共交通会議 名簿

No	区分	氏名	所属	備考
1	学識経験者	熊谷 樹一郎	摂南大学理工学部都市環境工学科教授	会長
2		井上 学	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻 教授	副会長 web
3	地方運輸局長が 指名する者	中村 洋一	大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送）	
4		釈迦戸 久夫	大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画）	欠席
5	交通事業者	山本 英幸	京阪バス株式会社経営企画室 代表部長	
6		谷川 嘉規	日本タクシー株式会社寝屋川総合営業所長	
7	労働組合	畑中 喜好	京阪バス労働組合副執行委員長	欠席
8		小川 敬二	日本タクシー労働組合執行委員長	欠席
9	道路管理者	八尾 信彦	大阪府枚方土木事務所参事兼地域支援・企画課長	
10		今井 真之	交野市都市まちづくり部道路河川課長	
11	交通管理者	三谷 剛史	交野警察署交通課長	
12	市民	奥田 多喜男	松塚区長	
13		玉井 八恵子	公募委員	
14		堀内 治	公募委員	
15	市長が 指名する者	井本 昌彦	大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長補佐	
16		中野 貴雄	交野市危機管理室次長	
17		山埜 勝哉	交野市企画財政部次長	
18		藤原 功	交野市福祉部次長	

※傍聴者：7名

【議事内容】

1. 開会

- (事務局) 本日の会議に出席委員はただいまのところ18名中15名となっております。交野市地域公共交通会議設置条例の規定によりまして過半数以上の出席となっており、会議が成立しておりますことを報告させていただきます。

○市長あいさつ

- (市長) 令和6年度第1回にご出席に感謝申し上げます。路線バス等の取り巻く環境は、2024年問題、労働時間上限設定、運転手不足の課題があります。他方で、“みんなでつくる、みんなの交野”としてコミュニティバス導入を公約としています。寺・神宮寺・東倉治巡回バス路線は、東倉治へ延伸をしました。今回は、北部の一部地域でワゴン車で運行することとなりました。国交省の助言もあり、「共創・MaaS実証プロジェクト」を活用して事業を進めています。詳細は後ほど事務局より説明がありますが、委員には、慎重なご審議をお願いいたします。
- (事務局) ありがとうございます。市長につきましては、こちらの方で退席をさせていただきますので、ご了承いただきます。
- (市長) みなさま、失礼いたします。よろしくお願いいたします。
- (事務局) それでは以降の議事につきましては、会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
- (会長) 本日もどうぞよろしくお願いいたします。慎重に審議をお願いいたします。それでは始めたいと思います。本日の会議でございますが、傍聴の申し出がございました。そこで公開・非公開についてお諮りしたいと思います。本日の会議は公開ということでご異議ございませんでしょうか。
- (委員全員) 異議なし。
- (会長) ありがとうございます。ご異議ないようでございますので、公開といたします。傍聴者の入室を許可いたします。しばらくお待ちください。
- (傍聴者) 7名が入室。
- (会長) それでは案件ごとに議事を進めていきたいと思います。

2. 令和6年度 共創・MaaS実証プロジェクトについて

- (会長) 事務局から説明をいただきたいと思います。
- (事務局) 資料1により説明
- (会長) ありがとうございます。ただ今の説明に関して皆様からご質問等はございますでしょうか。現時点でなければ、次の議題に関連する内容のため、次の議題であわせて質問を受け付けます。

3. (仮称)交野市北部巡回バス実証運行計画について

- (会長) 事務局から説明をいただきたいと思います。
- (事務局) 資料2により説明

- (会長) ありがとうございました。
- 評価・検証の視点は重要ですので、副会長よりコメントをいただきたいと思います。
- (副会長) 多くの利用者は見込まれないと思うなか、一定の利用があれば、赤字でも運行となりますが、予算制約のなかでどこまでも赤字の面倒が見られるわけではないので、その限度を設定する必要があると思います。具体的に数字が出ていないところは、どの程度に詰められるかが課題ですが項目は問題ないと思います。
- (会長) ほかにご意見、ご質問はございますか。
- (委員) 地公会で、交野市が前向きに取り組んでいることを高く評価します。巡回バス実証実験のなかで、評価・検証の視点と、この会議の位置づけを伺いたいです。
- 評価・検証の視点について、1便あたりの利用者数9人を最大として、収支率30%を目標とすると、現時点でどの程度を想定しますか。また、市負担額はどの程度の想定でしょうか。寝屋川市では、ねやBUS事業として約2億円を3路線に対して支出しています。今回の交野市では、7か月で2千万円程度とのことですが、その差が分かりにくいです。
- 2点目、9月からの運行となると、12～1月頃などで一度ご報告をいただけないでしょうか。また、この指標を満足しない場合にどのように進めていくか。私は、以前にAIオンデマンド交通を提案しましたが、こうしたことの検討はしないのでしょうか。
- (事務局) 1点目、前回の地域公共交通会議では、収支率20%を目標として、1車両あたり最大9人乗りということで運賃300円を設定しています。補助金は、日本タクシーでの運行受託分を市から補助金として支出します。収支率達成を前提として負担額を考えていきたいです。ねやBUSの2億円については、詳細を把握していませんが、契約形態や運行便数、臨時便等の条件の違いで金額の差が生じているものと考えます。
- 地域公共交通会議の活用について、評価の示し方は、実証運行の成果を我々で見えていく必要があることから、この会議で共有のうえご議論をいただきたい。
- (委員) 具体的な数字は出ないかもしれませんが、運行前には数字を示してはどうでしょうか。本格運行にむけて、今年度は補助金が一時的に活用できますが、持続可能性の確保のためには、どのように考えるのでしょうか。
- (事務局) 補助額は、収支率20%ベースと考えています。路線定期運行での費用は、結果を踏まえながら、より効率性のあがる運行方法等を検討していく可能性はあると考えています。
- (委員) 生活者の視点からみると、運行日や運行時間帯について、どうかと思います。また、運賃は高いが、便利だから利用する、高いから利用しない、ということが生じる可能性があると思います。
- 車いすのまま利用できないとのことで他の対応になるのかと思います。
- (事務局) 時間帯は、アンケート調査結果等から、通勤・通学への考慮の話がありましたが、共創モデル事業を踏まえ、この時間帯設定としたところです。今後、実証運行結果を踏まえつつ、検討を行ってまいります。運賃は、事業性等を考えたなかで設定しており、こちらも需要や利用状況を見つつ、検討の可能性を否定するもので

はございません。

(会長) まずは初期値とし、実証運行のなかで変えていくとのことです。

(委員) あまのがわ子ども食堂の運営に関わっており、交野女子学院から野菜の提供を受けています。受け取った写真や料理写真を交野女子学院に返送して交流しています。今回の実証でも、交流が進むとよいと思います。

(会長) 貴重な情報提供ありがとうございます。

(委員) 共創・MaaS 実証プロジェクトの説明を受けました。効率性、採算性向上のため、昔から商業施設との連携が言われており、実証であるからこそ、店舗からの支援や、バス利用者への割引等を考えないのでしょうか。

(事務局) 交野市としても、過去から地域公共交通利用促進の観点で、交野市ショーレンバル事業で、京阪バスと協力しつつ、バルチケット 2,000 円に京阪バス利用券を組み合わせて販売したことがあります。今年度は交野女子学院との連携を示しているところですが、今後も引き続き利用促進や公共交通のあり方を検討して参りたいと思います。

(委員) 今朝は、ごみゼロの日であり、60 人程度で清掃活動をしていた。バスの周知をしたところ、反応が鈍かったです。評価・検証の指標が出せる状態でなく、やってみないとわからないというのが感想です。目的は郡津地域の住民が中心であると感じており、それであれば、交野女子学院などと言わず走るだけでよいのではないのでしょうか。近隣都市計画はすばらしい。今回はそうではなく、まず空白地での運行と踏んでおり、地域には「できるだけ利用してください」とまでしか言えません。

停留所を置けるか、ベンチを置けるかという質問があるため、お願いしたい。

松塚地区内では、財産がゼロのなかで区長をやっている。知恵を絞ってお金を集めており、寄付もそのひとつである。交野病院や万代からの寄付など、住民の負担を減らす工夫ができると思うので、検証期間があるため、こうしたことを頭においていただきたいと思います。

交通の足としてもっと困っている地域もある。この実証の次には、対応をお願いしたいです。

(事務局) バス停位置は、現在調整しており、設置にあたっては、利便性、交通安全を考慮しています。停留所へのベンチ設置は、道路幅員を確保できない場所もあることから、道路管理者との協議が必要であり難しいと考えていますが、意見を踏まえて進めて参ります。

負担や連携は、様々な機関と連携した維持がひとつと考えています。沿線には、商業施設等もあり連携の可能性もあります。利用促進に取り組みつつ、検証してまいります。

(会長) 地域にPRする考えがありますか。

(事務局) 運行について、許認可申請のうえ、正式に決定していくことになります。我々としては、7 月下旬から 8 月には地域に説明会をするなど周知を行う予定としております。

(委員) 交通問題は、今後ますます厳しくなっていくと思われます。行政として、持続性のある内容で、利用者の立場では、免許返納者の最後の足として地域公共交通を

維持いただきたい。焦りもあり、地域で、将来公共バスがなくなったらどうするか議論しています。日本版ライドシェアではないですが、法に触れない形で共助を考えており、市としても迅速に対応いただきたい。持続性のため、交通事業者と一緒に知恵を絞ることが重要と考えます。

(会長) 地域公共交通は厳しい状況が続いており、地域公共交通会議でも議論を重ねていきたいと思います。

他に何かございますか。説明のあった内容は、他に意見なしと認めます。今後、停留所位置調整等、9月からの運行には、若干の変更があることをご承知おきいただく。また、検証結果はこの場で議論いただきたいと思います。

4. その他

(会長) 2024年4月1日から働き方改革関連法の施行より2か月が経過しました。運転手不足に伴い緊急の減便が全国的に行われており、この地域でも同様です。地域公共交通事業者の現状についてご共有いただきたいと思います。京阪バス株式会社様よろしくお願い致します。

(委員) 弊社事業運営へのご協力に感謝いたします。全国のバス事業者は厳しい状況にあり、京阪バスも同様です。本日は、資料に基づき当社の現状を説明いたします。資料3により説明。

(会長) 厳しい状況にあるとのことですが、副会長より、情報がありますか。

(副会長) 全国的にみると、長野市では休日の路線バスが全便運休となりました。福井県を運行する京福バスでは、全路線が赤字であるとのこと。運転手は、全国的に不足しており、春に減便して、さらに緊急減便というのは、他地域でも同様の状況です。春に減便したが、それ以上に運転手が辞めてしまい、平日ダイヤが維持できない現状にあるとのことですが、京阪バスが例外ではないとご理解いただきたい。減便に際して、地域から、昼間は使わないから朝夕だけでも確保をという声もありますが、この時間帯が最も人手を要します。また、運賃が高いからといって、運賃を下げると雇用できないなかで経費が上がっています。昭和・平成の時代と違うなかで、私たちの行動を考える時期にきていると思います。今回、京阪バスでは、残っている運転手が残業・休日出勤で対応をいただいていると推察します。一度、残業のない場合の仕業を提示いただき、バスで維持すべきか、見える化したうえで検討する時期に来ていると認識をいただきたい。私の自宅周辺でも減便となっていますが、要望がとおる社会ではなく、ある程度の我慢の折り合いをつける社会に来ていると考えます。

(会長) 協議会の意義が、事業者、自治体、利用者が考えていく場です。市町村の意向がなりたたなくなる転換期になりつつあります。この場で意識を醸成していきたいと思います。

(会長) その他、事務局から何かございますでしょうか。

○映画の説明

- (事務局) 副会長より資料の配布があります。
- (副会長) 資料「つぎとまります～あなたはバスの守り神？…神秘の町が奇跡を起こす～」により説明。
- (会長) 運転手確保にむけた啓発になるとよいと思います。

5. 閉会

- (会長) 以上で本日の会議を終了したいと思います。
- (委員) 京阪バスの運行が苦しいとの説明がありましたが、最近では、私の地区で星田交通が予約を受け付けなくなっています。4月からのことで、運転手不足や、運転手の退職が理由と聞いています。第一交通でも予約を受け付けていない。日本タクシーも難しいとのこと。高低差がある地域で移動の確保が問題になっています。第一交通は、1時間貸切が可能と伺いました。手術がある、病院に行くなどの場合で、タクシーでないと行けないとなると、第一交通は受けていただけるということです。ご参考までに共有します。
- (会長) 切実な問題です。
本日は以上とします。ありがとうございました。

以上